

第3回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日 時 令和8年8月31日（月）午後1時30分から午後3時30分まで
2. 場 所 角田市役所301会議室
3. 出席者
 - （1）角田市長期総合計画審議会委員22名
（別紙名簿のとおり）
 - （2）角田市第6次長期総合計画に係る事務局員12名
（別紙名簿のとおり）
 - （3）角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者
七十七リサーチ&コンサルティング株式会社
調査研究部 部長 関口 真介
調査研究部 副部長 主席研究員 木村 暢男
調査研究部 研究員 佐藤 史菜

4. 内容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

本日は蒸し暑い中、ご出席いただきありがとうございます。私は本日、静岡市から新幹線を乗り継いで参りました。連日の酷暑が報じられる一方、東北ではヤマセの影響により涼しさを感じることもあり、メディアで伝えられる状況と実際の体感が一致しないことがここ2、3週間の経験でした。

2040年には日本の100歳以上の人口が約40万人に達するとの見通しもあります。そのうちなんとですね、性別の割合をみると、男性は約2万5,000人とどまり、大半を女性が占めるということになります。ただ、見方や角度を変えてみると、長寿は喜ばしい一方、貧困や物価高の中で自宅に閉じこもり、地域との交流を持てない高齢者など、表面化しにくい深刻な課題も自治体の中に存在します。委員の皆様には、それぞれの知見を生かし、こうした見えづらい課題にも光を当て、きれいごとにとどまらない率直なご意見をいただきたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。

3 市長あいさつ

本日はご多忙の中、第3回審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より市政の推進にご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。これまで後期基本計画について議論を重ねてきましたが、今回は骨子・構成及び素案をご検討いただきます。また、これからのまちづくりの重要なテーマとなる「ウェルビーイング」についてもご議論いただきます。市民一人ひとりが幸せを実感でき、誰一人取り残されず、できる限り多くの方が笑顔で安心して暮らせる地域社会を、後期基本計画を通じて実現していきたいと考えています。

人口減少など社会情勢が刻々と変化する中、行政が固定観念にとらわれることなく施策を進めるためには、委員の皆様の専門的かつ豊富な知見と自由な発想が不可欠です。引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願いいたします。

4 報告

(1) 策定経過報告

(1) について事務局より、【資料】「角田市第6次長期総合計画（後期計画）策定経過」に基づき、説明を行った。

このことに係る質疑等はなかった。

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

(1) 角田市第6次長期総合計画 後期基本計画骨子・構成について【資料1】

(1) について事務局より、【資料1】に基づき、説明を行った。

このことに係る質疑等は以下のとおり。

〔柳井会長〕

資料1に示された7つの分野別施策の並び順について、⑤を②と③の間に配置した方が、関連する施策とのつながりや親和性が高まるのではないかと。現行の位置づけとした理由を確認したい。

〔佐々木企画調整係長〕

分野別施策の並び順は、前期基本計画の記載を引き継いだものである。ご意見を踏まえ、現行のままとする場合も含め、改めて並び順を検討する。

〔柳井会長〕

横断的な取組を明確に掲げた点は意欲的であり、今後の KPI の設定にも関わる重要な考え方である。並び順と併せて検討いただきたい。

〔荒井委員〕

「持続可能なまちづくり」から受けるイメージは、人によって異なる。従来はエコロジーなど、環境面や財政面が想起されることが多かったが、人が生き生きと暮らし、地域に愛着を持ち、子どもが育ち、人と人とのつながりが受け継がれることも持続可能性の重要な要素である。三世代同居など地域に根差した暮らしも含め、持続可能性がどこにつながるのか、具体的なイメージが伝わる示し方にしてほしい。

〔森委員〕

横断的な取組は、時代の要請に応えるチャレンジングな内容である。一方、ウェルビーイングは重要でありながら捉えにくい概念でもある。客観的な指標に加え、人とのつながりや地域への愛着など、主観的な幸福感をどの程度把握し、計画へ位置づけるのか。現段階での考え方を伺いたい。

〔佐々木企画調整係長〕

現段階では、主観的指標を計画のどこに、どのように位置づけるかまで具体化していない。市では2年に1度、市民アンケートを実施しており、今年度も実施予定である。ウェルビーイングに関する設問や主観的指標の設定について、今後相談しながら検討したい。

〔磯部委員〕

第1に、近年は災害によって1日でまちが壊滅的な状況に陥る事例もみられる。これまで安全だと考えられていた場所でも災害が発生しているため、既存の想定を見直し、防災・減災をまちづくりの重要なテーマとして位置づけてほしい。

第2に、教育を専門とする立場から、人口減少が進む中でも、特色ある教育や次世代人材の育成に取り組むことで人口を増やしている自治体がある。角田市においても、他地域の事例を参考にしながら、新しい教育や人づくりの視点を計画に取り入れてほしい。

〔柳井会長〕

過去の災害対応も踏まえ、次の被害を防ぐ観点から改めて点検してほしいという意見である。

〔加藤委員〕

ロジックモデルを活用し、施策が最終的な KPI につながっているかを確認するとの説明があったが、その考え方が分かりにくい。ロジックモデルと KPI の関係を分かりやすく説明してほしい。

〔森企画デジタル課長〕

ロジックモデルは、投入する資源や活動、そこから生じる成果が論理的につながり、最終的に市民の幸福や目標の実現へ結びついているかを因果関係に沿って整理する考え方である。職員向け研修を実施しており、その成果を KPI で測定できるかという点も含め、今回の計画策定に取り入れたい。

〔七十七リサーチ&コンサルティング〕

ロジックモデルは、目標に対し、どの施策がどのような影響を与え、成果の達成につながるのかを論理的に整理するものである。「この施策を行えば何となく目標を達成できるだろう」と考えるのではなく、施策と成果のつながりを明確にし、必要な施策を検討する際の考え方として活用する。

〔柳井会長〕

例えば、障害者雇用、福祉、農業、商工業等を個別に捉えるのではなく、それぞれの取組がどのようにつながり、成果を生むのかを図示する。その上で、取組の進捗や成果を KPI で評価するという理解でよい。KGI は個別施策ではなく、全体として達成すべき目標を捉えるものである。

〔加藤委員〕

因果関係を整理した上で、どのように適切な KPI を設定するのかについても、今後分かりやすく示してほしい。

(2) 角田市第 6 次長期総合計画 後期基本計画の素案検討について【資料 2】

(2) について七十七リサーチ&コンサルティング株式会社より、【資料 2】に基づき、説明を行った。

このことに係る質疑等は以下のとおり。

〔柳井会長〕

第1に、人口・世帯数の状況について、増減率だけでなく人口の絶対数も記載すべきである。絶対数がなければ他市町村との規模の比較や、角田市の現状把握が難しいため、居住者の特性に関する記載を再検討してほしい。

第2に、AIの記載が行政分野に偏っており、捉え方が狭い。今後はAIエージェント等により、企業規模や従業員数だけでは測れない生産性の向上や、産業・教育等の社会構造そのものの変化が想定される。人手不足への対応やセキュリティにも配慮しつつ、AIやロボットの活用が産業全体に与える影響を幅広く捉える必要がある。今後5年間で生じる変化の果実を角田市が地域に取り込めるよう、将来への期待を持てる内容として正面から位置づけてほしい。

〔七十七リサーチ&コンサルティング〕

AIについては、チャット型の活用に限らず、AIエージェントによる人手不足への対応など、産業全体にプラスとなる活用を想定する必要がある。セキュリティ等の課題にも留意しながら、記載を検討する。

〔荒井委員〕

素案の課題5「利便性の高い交通環境と都市機能の維持・強化」について、可能であれば公共交通に関する資料を追加してほしい。また、駅周辺のにぎわいや商業の課題について、資料11ページのデータをさらに掘り下げる必要がある。買回り品はインターネット購入や市外流出が多い一方、生鮮食品などは地元で購入される傾向がある。単に個別店舗の誘致を論じるのではなく、品目別の動向を踏まえ、今後の駅前商店街や中心市街地の姿を具体的に検討できる資料としてほしい。

〔七十七リサーチ&コンサルティング〕

買回り品については、インターネット取引の影響も大きいと考えられる。ご意見を踏まえ、データをさらに掘り下げ、駅周辺や商業の課題を検討する。

〔柳井会長〕

人口減少下で事業を継続している店舗は、インターネット取引等への対応を進めている場合が多い。こうした構造変化を先回りして捉え、計画に反映してほしい。

(3) ウェルビーイングなまちづくりについて【資料3-1】【資料3-2】

(3) について事務局より、【資料3-1】及び【資料3-2】に基づき説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

〔柳井会長〕

資料14ページの市町村別データは、県全体の数値を市町村へ比例配分して推計したものであり、取扱いには注意が必要である。根拠や限界を確認し、慎重に使用してほしい。続いて、各委員から1人1分程度で意見を伺う。

〔佐々木委員〕

今回示された内容は、ウェルビーイングを考える上での基本となる。今後は内容をさらに掘り下げ、角田市の施策へどのように落とし込み、具体的な貢献につなげるのかを整理してほしい。

〔荒木委員〕

角田市は製造業が強く、地域の中小企業にも実力や経営内容に優れた企業が多い。一方、人手不足だけでなく、事業承継や会社の存続について相談を受けることも多く、経営者の悩みは深い。市民の幸福度を考える上では、こうした既存企業の思いをくみ取ることも重要である。新しい工場の誘致だけでなく、長年地域を支えてきた企業が外部とのつながりを持ち、事業を継続できるよう支援することで、地域全体の幸福感向上につなげてほしい。

〔柳井会長〕

新規事業は10年後に残る割合が低いともいわれる。新規創業だけでなく、地域に根づいてきた既存企業の事業承継や持続的な成長を支援することが、安定した地域づくりには重要である。

〔近藤委員〕

製造業に携わる企業として、地域で長く事業を続けていきたい。そのためには、防災への取組が不可欠であり、災害への備えが不十分であれば事業継続は難しい。防災・減災の取組に力を入れてほしい。

〔戸田委員〕

資料 9 ページの「ウェルビーイングの 5 つの柱」は理解できるが、幸福の感じ方は個人の考え方や環境によって異なる。市が市民の幸福をどのように後押しするのか、資料同士のつながりや具体的な進め方が分かりにくいので、説明してほしい。

〔佐々木企画調整係長〕

幸福の感じ方が個人ごとに異なることは認識している。第 6 次長期総合計画では、人口減少を前提としつつ、角田市で暮らす方々が幸せを感じられる目標や施策を考えることを重視している。ウェルビーイングを計画全体のキーワードとして位置づけ、施策へ落とし込んでいきたい。

〔戸田委員〕

その考え方であれば、資料 3-2 に示された「幸せを感じることを伸ばし」、「困っていること」を解消し、「あったらもっと幸せになること」は実現可能なものから進めることが重要である。また、木造高層建築など技術革新が進んでいる。角田市でも地域資源と新技術をうまくつなげ、まちづくりに生かしてほしい。

〔遠藤摂子委員〕

高齢者施設に勤務している。近年、各地で水害が発生しており、角田市でも令和元年東日本台風の際には、職員が水につかりながら歩いて施設へ向かった経験がある。高齢者施設の安全確保も含め、防災・水害対策に引き続き力を入れてほしい。

〔大槻総務部長〕

防災・減災の計画に基づき順次対策を進めているが、予算確保が難しく、施設整備には時間を要する。これまでの常識が通用しない災害が発生しているため、ハード整備に加え、避難や連携体制などソフト面の対策も含めて進めたい。

〔中橋委員〕

「あったらもっと幸せになること」という観点では、角田市内に産婦人科や小児科が少なく、子どもの受診のために市外へ出向き、保護者が仕事を早退しなければならないことがある。近くで受診できれば、時間的な余裕が生まれ、働きやすさにもつながる。

また、病児保育の制度があっても、受診して書類を作成してもらうなど手続が煩雑で、現実には利用しにくい。制度の周知だけでなく、手続を簡素化し、保護者が実際に使いやすい仕組みに改善してほしい。

〔柳井会長〕

産婦人科は総合的な医療体制が必要であり、単独での設置は容易ではない。実現を検討する場合は、関連する医療機能を含めて体制を整える必要がある。

〔松橋委員〕

幸福の感じ方は個人によって異なるため、ウェルビーイングの5つの柱をどのように具体的な目標へ落とし込むかは難しい課題である。今後 KPI 等を見直す際には、さまざまな意見を聴きながら、市民が幸せに暮らすための視点を増やしてほしい。幸福の水準を一律にすることは難しいが、「角田市に住んでよかった」と感じられる施策につなげることが重要である。

〔柳井会長〕

主観的な幸福感を KPI として扱う場合、安易な指標設定にならないよう注意が必要である。事務局は、満足度等の測定方法が適切であることを確認し、指標の選定理由について説明責任を果たしてほしい。

〔齋藤委員〕

JA では農産物を作って販売するが、継続的な取引には、生協など購入者側との人と人とのつながりが重要である。角田市には友好都市等のさまざまなチャンネルがあるため、行政が相手自治体の担当者との関係づくりを後押しし、組織間のつながりを個人的な信頼関係にまで深める仕組みを検討してほしい。

〔磯部委員〕

ウェルビーイング講座の市民参加者が 11 名であったことは少ないと感じる。また、その内訳に若者や子どもがどの程度含まれていたのかが気になる。市民の声を踏まえて施策を企画するのであれば、より多くの市民が参加できる工夫を行い、年齢層等のバランスにも配慮すべきである。特に、これからの角田市を担う若者や子どもの声を積極的に聴いてほしい。

〔柳井会長〕

高校との連携や企業内での意見聴取など、さまざまな方法が考えられる。より幅広い市民の声を聴く機会を検討してほしい。

〔森委員〕

分析結果を計画へつなげる際には、市民一人ひとりの顔や生活を具体的に想像することが重要である。例えば、独居高齢者が抱える課題を、介護、仕事、買物、交通等の複数分野を横断して捉え、その生活全体を踏まえた総合計画としてほしい。

また、「市民力」は後期基本計画でも重要である。自治、防災、福祉、地域で子どもを育てる取組など、分野横断的な地域の基盤づくりに積極的に投資することが、人口減少下でも力強く進むまちづくりにつながる。

〔高橋委員〕

多方面から分析されており、内容には共感できる。一方、「ウェルビーイング」という言葉自体が難しく、市民に理解してもらうための配慮が必要である。地域計画を作成した際には、誰にでも分かりやすい言葉を使うことを重視した。今回の計画も市民が読むものであるため、平易な言葉と丁寧な説明を心掛けてほしい。

〔立花委員〕

市内には子どもが楽しめる遊び場があるものの、利用者が少なく、貸切りのような状態になることもある。施設や遊び場をより多くの人に知ってもらい、利用につなげてほしい。

また、地域の学校では、合唱部の生徒が 1 人になったと聞いた。声を出して歌う機会が少なくなっていることは残念であり、文化・音楽活動を伸ばす取組も進めてほしい。

〔遠藤恵美子委員〕

資料には多くの施策が示されているが、ウェルビーイングを基本に、1つの取組が他の取組とどのように連動するのかを分かりやすく示してほしい。施策同士や人のつながりを可視化できれば、全体像を理解しやすくなる。

また、角田市では公共交通を利用しにくく、高齢者が若い世代に送迎を頼ることも多い。誰かに頼らなくても自分の意思で外出できる移動手段があれば、外出や交流が増え、地域の活性化にもつながる。

〔柳井会長〕

前半の意見はロジックモデルに関わる。ウェルビーイングは単一の施策だけで説明できるものではないため、施策間のつながりを総合的なマップや図にして可視化し、全体としてどのようにウェルビーイングへ結びつくのか説明できるようにしてほしい。

〔小野孝子委員〕

高齢者を集めて健康体操を行い、その後にお茶を飲みながら困りごとや要望を聴く活動をしている。単に活動の場を設けるだけでなく、人とつながり、互いに支援できる地域の組織づくりが重要である。1人では対応できないことも、得意な人につなぐことで支援できる。各地域でこうした人材や組織を育てられるよう、市に指導・支援してほしい。

〔小野陽子委員〕

商工会では、会員から高齢化や転居等を理由に廃業するとの話を聞くことが増え、会員数も減少している。このまま地域をどのように維持していくのか危機感がある。

また、夏祭りでは雨により子どものパレード等が中止となり、それを楽しみに来場した家族が帰ってしまった。天候に左右される場合でも人が楽しめる工夫を行い、より多くの人が集まり、地域が盛り上がる催しにしてほしい。

〔渡邊委員〕

分野別施策の並び順について、スポーツ協会をはじめとする市内団体は、教育、福祉、健康等の分野と関わりながら活動しており、施策同士のつながりが分かる順番がよい。

スポーツ協会では各競技団体の高齢化が進み、運営が難しくなっている。団体間で協力しながら大会や講習会を継続し、市民が満足感や充実感を得られる機会をつくりたい。市にも協力をお願いしたい。

〔加藤委員〕

ウェルビーイングという考え方が突然出てきた印象がある。これまで分科会等で検討してきた内容をウェルビーイングの観点に照らした場合、従来と同じ考え方で進めてよいのか。また、KPI の設定方法や数値の持ち方が今後どのように変わるのか、期待と不安の両方がある。

資料 3-1 の最終ページには、角田市は経済活動の基盤がしっかりしているとの記載があるが、防災予算の確保が難しいとの話もあり、本当に経済的に豊かといえるのか疑問がある。行政の財政基盤を指すのか、統計上の数値を指すのかを明確にし、数字だけに左右されず、実態を踏まえて検討してほしい。

〔砂金委員〕

行政区長として地域を見ると、郡部では高齢者と同居する息子や娘が減り、高齢者のみの世帯が増えている。今後どのように支えていくか、地域で話し合う必要がある。

また、空き家が増え、火災等も心配である。見回りや近隣住民への声掛けを行っているが、対応が必要な住宅は増えている。枝野地区でも話し合いを行っているが、過疎化が進む中、今後の対応を検討していく必要がある。

〔柳井会長〕

ウェルビーイングの指標は、居住者が少ない地域や声を上げにくい人々の課題を捉えにくい場合がある。こうした地域や人々を取り残さず、どのようにウェルビーイングへつなげるのかというストーリーも計画に必要である。

〔村上委員〕

安全・安心な地域づくりについて、近年の気候変動により予測困難な災害が発生しており、AI だけで将来を予測することは難しい。新しい消防庁舎の整備も踏まえ、AI 等の技術と、これまで蓄積してきた知識・経験を融合し、小学校、消防団、女性防火クラブ等へ広く伝承していきたい。誰もが気軽に立ち寄れる、親しみのある防災拠点として機能させ、安全・安心に貢献したい。

〔安部委員〕

本日の会議を通じ、角田市が抱えるさまざまな課題が明らかになった。行政区長として、自分の地区の課題も改めて把握しなければならないと感じた。地域では高齢化、人と人とのつながりの希薄化、少子化、世帯や人口の減少が進み、子どもが少なく、将来の成長を見通しにくくなっている。

同様の課題を抱える自治体は全国で増えると考えられる。若い世代をどのように支えるかが重要であり、若者が力を発揮できるよう、地域全体で応援する仕組みをつくっていききたい。

〔柳井会長〕

本日いただいた多様な意見を受け止め、今後の後期基本計画の策定に生かしていただきたい。以上をもって議事を終了する。

6 その他

全体を通じて、委員から追加の意見はなかった。

7 閉会